

教育大綱 基本方針―Ⅰ

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

関中学校区 研究主題

自他の尊厳や多様な価値観を認め、共に学び、主体的に行動する児童・生徒の育成

Ⅰ. 学校教育目標

「豊かな心を持ち、進んで行動する生徒の育成」

2. 研究主題

「かけがえのない自分に自信をもち、
互いの良さを認めあい、つながり高まりあえる生徒の育成」
～ 一人ひとりが生き生きと学び、議論を深める授業づくり ～

3. 研究主題設定の理由

①生徒の実態

本校は、各学年2学級と小規模の学校であり、生徒たちは豊かな自然とふれあう経験や昔の「まちなみ」を中心とする文化に触れる経験を経て入学している。素直で、「学校へ行くのが楽しい」という生徒が多く、その割合は全国的にみても高い。学校行事や部活動などさまざまな場面で一生懸命取り組み、仲間と協力して活動を進めることができている。その一方で、「TVの視聴時間・ゲームやスマートフォンにかける時間」の長さは課題であり、生活リズムの維持や健康への影響とともに、家庭学習習慣の定着にとっても大きな妨げとなっている。学習に関しては、授業に前向きに取り組める生徒は多いが、学習内容の定着に関しては個人差が大きい。家庭学習の習慣化にも課題が見られる。また、自分の考えを書き、書いたことを伝えることはできるが、他の人の意見を聞いて自分の意見を述べたりする表現力が足りず、議論するところまでは至っていない。さらに、小学校までに一度構築された人間関係から脱却しにくく、表面的には気にしているが、今までの関係を壊したくなくて行動できなかったり、うまく関われなかったりという様子が見られる。その結果、学校に来にくくなったり、不登校になったりする生徒もいる。また、コロナ禍の影響もあり、対面での話し合い活動や協力しながらの活動が制限されたり、マスクにより相手の表情が読み取れなかったりして、心を開いて自分の思いを伝えられない傾向は今も

なお継続しているのではないかと考えられる。

このような実態をふまえ、今年度も昨年度に引き続き、生徒一人ひとりが授業の中で自分の考えを表現し、他の人の考えを受け止め、さらに自分の意見をつなげ、議論を深めていく。そのような活動を通じて、互いの理解を深める仲間づくりや学級づくりを進めていきたい。そして、生徒一人ひとりの学びを保障するために学習規律、学習環境等を整え、補充学習で基礎的あるいは発展的な学びを支え、授業づくりにおいて毎時の授業の質的向上を図ることを目指していく。

②これまでの取り組み、これまでの成果・課題

【成果】

- ・昨年度の研修で、ペア学習やグループ学習の活用を1つの取り組みとして行ってきた。生徒たちが生き生きと取り組む様子、楽しく取り組む様子が見られた。話し合いの学習が自然に取り組めるようになってきている。また、教師側も、さまざまな教科でペアや班、グループでの話し合いを授業の中で取り入れようと意識することができたし、どのような課題を提示するかも検討することができた。
- ・ペア学習やグループ学習の活用、「話し合いのルール」や「話し合いのコツ」を意識した活動、ICT機器の活用など、授業を工夫して行うことができた。
- ・校区公開授業やミニ公開授業を行い、お互いの授業を見合うことで、自分の教科ならどのように取り組ませるかなど考える機会になった。同じ授業を通して、教師どうして議論し、良い方法や改善点を見出す過程を事後の校内研修会で取り組むことができた。
- ・学調やみえスタの分析結果を校内で交流し、具体的な取り組みについて検討したので、その内容を授業のどの場面で活かすのか、考えながら授業づくりを行えた。
- ・教育相談などをする中で、生徒一人ひとりと話をすることができ、個々の思いや考えを聞くことができた。また、学年で共有し、対応することもできた。
- ・質問タイムの体制を昨年度変更し、教科ごとに学習する教室を分け、担当教科の先生に教えてもらえたことが良かった。生徒たちも目的をもって学習することができ、質問もしやすかった。

【今後の課題】

- ・生徒の議論する力が弱く、対話から生まれる深まりが十分に得られない。生徒は、自分の意見は整理できていれば話すことができるが、他からの意見に対して疑問を伝えたり、切り返したりする力が弱い。「なぜ」「どうして」を言葉にさせることが自分の気持ちを発信する力になるので、それが引き出せるような、教師からの効果的な「問い返し」「切り返し」「揺さぶり」が日頃から大切である。また、生徒たちが意見を交流しながら問題を解決できるような課題の設定を行う必要がある。
- ・基礎学力定着のための授業研究や教材研究、課題の提示を行ってきたが、生徒たちの学力差は顕著に表れている。個々の課題に応じた手立てを考えたり、eライブラリを活用した持ち帰り学習をさらに活用したりして、基礎学力定着に向けた取り組みを行っていく必要が感じられる。
- ・「つながり高まりあえる生徒」を育成するためには、その基盤となる仲間づくりをより大切にして取り組みを進めていかなければいけない。

4. 研究主題について

「一人ひとり」が「生き生きと」学ぶためには、「生徒が受ける授業」「生徒が参加する授業」ではなく、「生徒がつくりあげる授業」を目指し、生徒が主体となって、互いに対話を進めながらつくりあげる授業の実践を主眼におき、研究主題を「かけがえのない自分に自信をもち、互いの良さを認めあい、つながり高まりあえる生徒の育成」と設定した。また、副主題に「一人ひとりが生き生きと学び、議論を深める授業づくり」と設定し、これまでの取り組みをさらに深めている。

授業規律が保たれ、落ち着いた環境のなかで生徒は真面目に学習に取り組んでいる。だからこそ、自

分の思いを表現し、生徒と生徒とが活発に意見交換して議論を深め、その結果、授業の「めあて」に迫れるような姿を望ましい姿と捉え、「つながり高まりあえる」生徒を育成したい。

《主題》《校区の研究主題も内容は共通》

◇かけがえのない自分に自信をもち

⇒自己肯定感が高まった状態。失敗をおそれず授業中に自信をもって意見を言える。

◇互いの良さを認めあい

⇒自分の意見を持ちながらも、他人の意見にしっかり耳を傾け、その考えを謙虚に採り入れることができる。

◇つながり高まりあえる

⇒指導者を介さない状態でも活発に意見を交換でき、「わからない」生徒を支援したり、自分の考えを深化させたりできる。

《副主題》

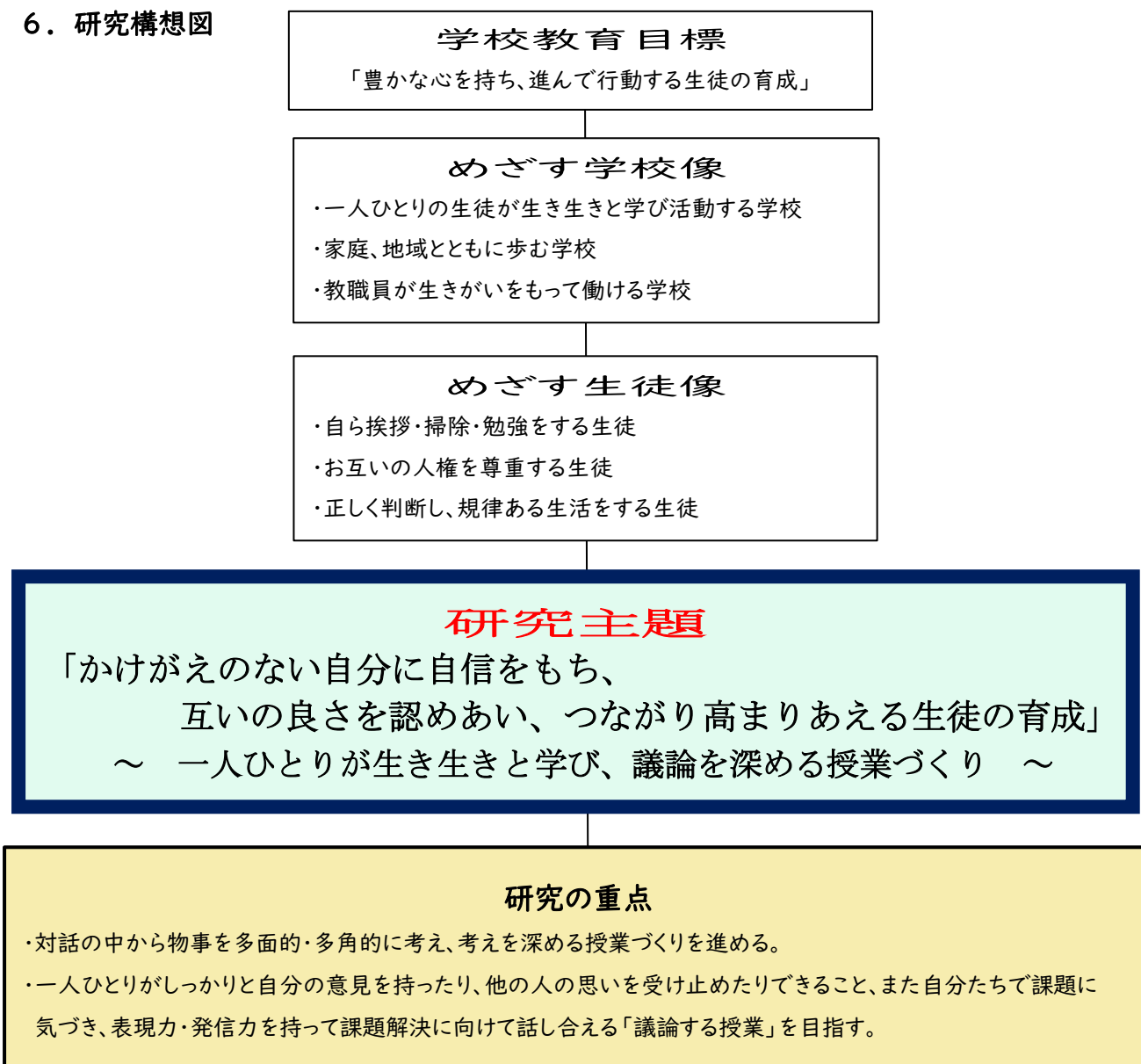
◇一人ひとりが生き生きと学び、議論を深める

⇒全員が参加できる。全員が意見をもてる。全員が「めあて」をもとに、「考えたい」「意見交換したい」という意欲をもって議論し、「めあて」に対する答えに迫るべく考えを深められる。

5. 研究領域

全教科・全領域

6. 研究構想図



7. 具体的な取り組み

①【子どもたちの表現力・発信力の育成】

- ・自分の思いを伝えたり、仲間の思いを受け止めたりする力の育成
- ・自己肯定感が高まり、仲間のことを尊重できる生徒の育成
- ・対話から生まれる深い学び
- ・伝えたい相手を想定した話し方のスキルの育成
- ・生徒が本音を語り、教師も本音を語る

②【授業づくり】

- ・ペア学習やグループ学習で、生徒が主体となり、互いに対話を進めながら議論を深める授業
- ・生徒たちが意見を交流しながら問題を解決できるような課題の設定
- ・ペア学習やグループ学習の中の「話し合いのルール」を設定
- ・「思考のスイッチ」が入るような導入の工夫（ICT 機器の活用も含む）
- ・効果的な「めあて」「ふりかえり」の設定
- ・魅力的な「謎」の提示。「問い返し」「切り返し」「揺さぶり」
- ・様々な学び（教科横断的な学びも含む）がつながり、考えが深まる授業
- ・授業改善につながる適切な評価、分析（小テスト・単元テスト・定期テスト等、学調・みえスタの分析も含む）

③【学習のベース】

- ・仲間づくり・学級づくり（生徒理解 反差別でつながる仲間 QU やアンケート等も含む）
- ・授業規律
- ・学習環境づくり（ICT 機器の利用や居場所づくり、不登校対応等も含む、）
- ・基礎の徹底（家庭学習、自主学習、読書活動、朝学習・朝読書、質問タイム、夏休み中の補充学習、Spelling Contest や漢字相撲などのスペシャルコンテスト）
- ・SKRA 運動（掃除、聞く、ルール、あいさつをしっかりとる生徒会の取り組み）